

# 令和4年度事業報告

食肉生産技術研究組合（以下「研究組合」という。）は、平成4年に設立され、主として（独）農畜産業振興機構の助成金により、食肉処理等に関する機械・施設の研究開発を行い、食肉処理施設等の近代化に寄与してきた。

（独）農畜産業振興機構の研究組合への助成が平成22年度で中止された以降は、国、団体が公募する研究開発事業に応募し、研究開発を行ってきた。

令和4年度も引き続き、国、団体等の公募事業に応募し、研究開発を推進するとともに、研究開発された成果について普及に努めた。

## 研究開発事業の実施

国及び団体が公募する研究開発事業に応募し、次のとおり研究開発を推進した。

### （1）JRA 畜産振興事業

原皮裁断技術開発実用化推進事業(令和3～4年度事業)

世界的な原皮需要の減少により、販売できずにレンダリングや焼却処理をせざるを得ない原皮が発生しているが、レンダリングや焼却処理を行うためには原皮の裁断が必要なことから、原皮を効率的に裁断する装置の開発を行った。

### （2）公益財団法人伊藤記念財団委託事業

牛の背割りの自動化・効率化に関する研究開発事業(平成30年度～令和4年度事業)

熟練作業者の高齢化等に伴い、食肉処理施設から牛の背割り作業の自動化が要請されていることから、牛の自動背割り機に関する研究開発を行った。

### （3）生研支援センター事業

豚ロース・バラ自動脱骨装置研究開発事業（令和4年度～6年度）

豚ロース・バラの脱骨は、低温下でナイフを使用する危険な作業で熟練が必要なため、深刻な人手不足を招いていることから、ロボット自動脱骨装置を開発中である

## 2. 研究成果の普及

研究成果の普及を図るため、令和5年2月24日に大手町KDDIホールで食肉処理

施設や関係者143名の参加を得てZOOM方式で研究成果発表会を開催するとともに、東京ビックサイトで令和5年3月7～10日に開催された食肉産業展に出展し、研究成果の普及に努めた。(参加者：フーデックスと合計で73,789人)

また、(公財)日本食肉生産技術開発センターの機関誌「JAMTI BULLETIN」(350部)やホームページにより研究成果の普及に努めた。

### 3. システム研究会の実施

研究組合の組合員間の技術交流を通じて、研究開発の一層の推進を図るため、令和4年10月14日に大手町KDDIホールでZOOM方式併用により食肉生産技術システム研究会を開催した(参加者35名)。

## 4 理事会・総会の開催

### (1) 理事会

#### ア 第1回理事会

令和4年5月31日

議題 総会提出議案について

- ①令和3年度事業報告及び決算報告書に関する件
- ②役員を選任候補者の推薦に関する件

#### イ 第2回理事会

令和4年5月31日

議題

理事長の選任に関する件

#### ウ 第3回理事会

令和4年9月30日

議題 総会提出議案について

令和4年度事業計画及び収支予算の変更に関する件

#### エ 第4回理事会

令和5年3月27日

議題 総会提出議案

①令和5年度事業計画及び収支予算に関する件

②令和5年度賦課金に関する件

報告

食肉生産技術研究組合の令和4年度下半期の事業の実施状況

(2) 総会

ア 通常総会

令和4年5月31日

議題

①令和3年度事業報告及び決算報告書に関する件

②役員を選任に関する件

イ 臨時総会

令和5年3月27日

議題

①令和5年度事業計画及び収支予算に関する件

②令和5年度賦課金に関する件

報告事項

食肉生産技術研究組合の令和4年度下半期の事業の実施状況

5 組合員及び理事の異動

理事の異動

令和4年5月31日の総会において、理事の関川和孝氏、上野聡氏、脇田暁夫氏及び監事の永澤晴彦氏の辞任に伴い、新開稔氏、鳴海秀一氏、宮坂亘氏が理事に、濱勝也氏が監事にそれぞれ選任された。

令和4年5月31日の総会後に開催された第2回理事会において、宮坂亘氏が理事長に選任された。